

◆巻頭言◆

アウトカム経済の時代 その4

創造の経済

日本ナレッジ・マネジメント学会専務理事 山崎 秀夫

これまでアウトカムエコノミーをビジネスモデルの変更としてのモノ支配論理からサービス支配論理への移行、オンデマンド経済（フリーランスやミニ企業家など雇われない働き方）への移行、更に画一化された大量生産・大量消費へのカウンターカルチャー（対抗文化）などの側面で見えてきた。そこで今回は“創造の経済”の視点で見ていくことにする。

提唱者のリチャード・フロリダ氏によれば“創造の経済”は大手の組織内ではなく、企業組織の外にある社会インフラとしての都市の雰囲気、長期的な内向きの濃い人間関係ではなく、都市のさらっとした人間関係での創造性の芽生えを前提としている。これはフランス革命などの18世紀、啓蒙思想に見られる「自由、平等、友愛」の21世紀的な発展形と考えることもできる。創造の経済に代表されるニューエコノミーやアウトカム経済が新しい資本主義と言われる所以である。

1) クリエイティブクラスとサービスクラスの登場

リチャード・フロリダは、“創造の経済”への移行の結果、クリエイティブクラスとサービスクラスが誕生すると述べている。クリエイティブクラスはナレッジワーカーとは異なる。ナレッジワーカーは組織内のホワイトカラーの発展形と考えられるのに対し、クリエイティブクラスはフリーランスやミニ企業家、組織をプロジェクト単位に渡り歩くような人々を対象としている。検索エンジンで知られるグーグルはクリエイティブクラスを「スマートクリエイティブ」と呼んでいる。シリコンバレーで高級を稼ぐソフトウェアエンジニア、コンサルタント、弁護士、金融マンなどがクリエイティブクラスに相当する。

丁度、ハリウッドの俳優や監督、カメラマンのように創造性を発揮しながら組織を渡り歩く能力を持った人々である。筆者は美容師などもリチャード・フロリダは、“創造の経済”で述べられている美容師などもクリエイティブクラスに属すると考えている。21世紀の米国では工場で働いた方が安定し、給与が高いにも関わらず、美容師などの仕事を選ぶ人々が増えている。また3Dプリンターを使って日曜大工をする傍ら、フリーランスで仕事を請

け負う人々もクリエイティブクラスに属する。

一方レストランの給仕やコンビニのアルバイトなどはサービスクラスと呼ばれており、所得が低いフリーランスの人々もいる。彼らはサービスクラスと呼ばれている。クリエイティブクラスとサービスクラスの二極分化は、創造の経済の議論の中で新しい階級闘争と見る見方もある。

実際、2013年頃には、サンフランシスコのグーグルなどのシャトルバスの運行をサービスクラスが阻止した事件がある。彼らは変な石版（タブレットコンピューター）を持った鼻持ちならない連中がバス停を占拠するのが、我慢がならなかったのである。シリコンバレーで働く、高級取りのクリエイティブクラスがサンフランシスコに住んだおかげで家賃は高騰し、昔からの住民とサービスクラスは立ち退きを迫られた。またスマートフォンタクシーのUberなどでは、ドライバーなど明らかにサービスクラスの人々を正規労働者に分類するかフリーランスに分類するかが2016年、大統領選挙の焦点になっている。

2) フリーランサーとカウンターカルチャー

クリエイティブクラスの台頭はインターネットからフリーランスやミニ企業家などを排出し始めた事を意味する。その一部は自宅で手作り商品を製作し販売を始めている。（アマゾンやエッチャー）彼らの創造性の発揮の背景には明らかにカウンターカルチャーの伝統がある。

3) 自宅でのモノ作り、手作り一品生産

クリエイティブクラスの一部は3Dプリンターやレーザーカッターなどを使って、またそれらを使わないで自宅でのモノ作りを始めている。この手作り生産や一品生産品をアマゾンなどが取り扱いだした。

その特徴は専門システムによる顔の見えない大量生産品からの脱却である。昔、ココ・シャネルは自ら発明した香水に「シャネルの5番」という名称を付けた。シャネルの5番とはシャネルが南フランスの孤児院で過ごした時の部屋の番号である。この商品の後ろの物語りが評判を呼び、シャネルの5番は大ヒットした。顔の見えないモノから物語を伴うサービスとして登場したシャネルの香水が人々の心を魅了したのである。

だからアマゾンの手作り品の紹介欄には製作者の個人ホームページが張り付けられており、出来るだけ工房の様子などを開示するよう促されている。作り手の顔が見え物語がサービス要素になる。これも明らかにアウトカム経済であり、創造の経済である。

4) ロボアドバイザーか、クリエイティブクラスか

アウトカム経済は自動運転のスマートカーの夢で瞬く間に自動車産業を飲み込んだ。自動運転が可能ならば、貸付金申請の諾否や投信の推奨を機械でできないはずがないと登場

したフィンテックではロボアドバイザーが活躍を始めている。アウトカム経済の時代になればクリエイティブクラスへの変身、育成が大問題になる。さもないと失業するか、所得の低いサービスクラスに甘んじることになりそうだ。